概要版

赤磐市
教育振興基本計画（教育大綱）

この計画は、教育基本法第 17 条第 2 項の規定を受けて、赤磐市の教育施策に関する基本理念や基本方針等を明らかにし、中長期的な目標や基本的な方向性を明らかにするものです。赤磐市における教育の方向性を示す基本的な指針であることから、計画期間を令和７度(2025 年度)から令和 10 年度（2028 年度）までの４年間としています。

【基本理念】

赤磐市マスコットキャラクター
「あかいわモモちゃん」

多様な学びで未来を創る赤磐の教育

○　これからの予測不能な社会の中においても、学校・家庭・地域が一体となって、たくましく生きるための確かな学力と、自ら挑戦しようとする意欲を育てます。

○　郷土赤磐を愛し、グローバルな視野を持って、より良い世界、日本、地域社会づくりに積極的に貢献できるような人材を育成する教育を推進します。

○　市民一人ひとりが、郷土に愛着と誇りを持ち、いきいきと学び、スポーツに親しみ、心身ともに豊かな人生を送ることができるよう努めます。

○　地域の特性を活かした、「子どもたちが主体の学校づくり」と「市民が主体の生涯学習」の推進を通して、赤磐市の将来像である「（仮）共に未来を描く 白桃発祥のまち あかいわ」の実現に取り組みます。

【基本方針】

「共に未来を描く 白桃発祥のまち あかいわ」の実現を目指し、市民が健康で心豊かにいきいきと暮らしていくためには、豊かな自然環境やその中で育まれてきた文化などの地域資源を活かし、市独自の個性ある魅力的な取り組みを、様々な教育活動や社会体験に取り入れ、ともに支えあい助けあう心を育む教育活動を推進していくとともに、生涯にわたり主体的に学び続けることができる環境を整備していくことが必要です。

赤磐市は、学力向上や問題行動など多様な教育課題への取り組みとして教育改革を積極的に推進していくとともに、少子高齢化、核家族化、高度情報化の進展等から生まれる様々な課題にも適切に対応していきます。

特に赤磐市においては、人口の集中と過疎の両極化が進むなか、児童・生徒数が増加している地域では学校施設・設備の不足、減少している地域の学校では多様な学習形態、集団の確保など、様々な課題があります。これらの課題の解消に向け、柔軟できめ細やかな教育活動を行うとともに、安全・安心な教育環境の整備に取り組みます。

1 夢に向かって、たくましく生きる力の育成

○　幼児・児童・生徒が夢や目標を持ち、確かな学力と学習習慣、心豊かな道徳性、健康でたくましい体力などの「生きる力」を育てることを基本として、学校教育、社会教育、家庭教育の充実及び連携を図りながら、国際問題や世界情勢に目を向けたグローバルな視点を持って、より良い社会づくりに貢献する社会人として生きていく力の育成に努めます。

○　幼児・児童・生徒の望ましい生活習慣の形成や体力づくり、食育を通して、健康な体づくりを推進します。

○　個別最適な学びや協働的な学習を充実させることにより、学習活動の基盤となる自ら学び自ら考える力の育成に努めます。

○　非認知能力の育成の視点を持って、幼児教育と学校教育を円滑に接続することで、子どもたちが自ら次の学びにいきいきと進んでいけるように、市内の中学校ブロックにおける学校園間の連携強化を図ります。

2 豊かな心と健やかな体を育む生涯学習の充実

○　市民のウェルビーイングの実現のため、公民館・図書館をはじめとする社会教育施設、スポーツ施設など、様々な施設において、生涯学び、活躍できる生涯学習の場の提供と環境整備に努めます。

○　生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成するとともに、生活習慣の確立により、たくましく生きていくための健康増進と体力の向上を目指します。

○　一人ひとりの多様なウェルビーイングの実現のため、性別や障がいの有無などに関わらず、心身ともに健康で充実感が得られる生涯学習活動の展開に努め、お互いに多様性を認められる共生社会の実現を目指します。

3 生きる喜びと心のゆとりの創出

○　年齢や住んでいる地域等に関わらず、生涯を通じて文化芸術を鑑賞したり、自ら体験したりできるよう、環境の整備や文化芸術活動の積極的な支援を行い、心の豊かさを感じられる教育の充実を目指します。

○　地域の特性に根ざした学習や体験を、教育活動全体を通じて行うとともに、子どもたちが生まれ育った地域への理解を深めることにより、地域の活力を生み出す担い手として、ボランティア活動やまちづくり事業などへ積極的に参画する意識の高揚を目指します。

○　すべての人の人権が尊重され、自他の人権を守る意識を向上させるため、人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成を図り、様々な偏見や差別のない、誰もが生きる喜びを感じられる社会の実現を目指します。

【基本目標・主要施策】

1 主体的な学びと健やかな心身の成長を促す幼稚園教育、学校教育の充実

○　子どもたち一人ひとりの発達段階や関心に応じた個別最適な学習と協働的な学習を行うことで、子どもたちが自ら学びに取り組む機会を増やし、主体的な学習意欲を育みます。
○　学校、家庭、地域、行政など関係者が連携して、子どもたちが安心して学べる教育環境の向上に取り組みます。
○　保育園・幼稚園・こども園・小学校・中学校の連携により、発達段階に応じた資質・能力の成長をつなげていきます。
○　インクルーシブ[2]な発想をもとにした教育活動を行うことで、自己理解を深め、自己実現に向かおうとする意欲や、様々な価値観の存在を理解し、他者と望ましい関係を築こうとする態度を育みます。

重点施策（重点的に取り組む施策）	推進施策（維持・伸長・拡充を図っていく施策）
①教育環境整備の推進 ②確かな学力の定着 ③心身ともに健康な幼児・児童・生徒の育成	①幼稚園教育の充実 ②特別支援教育の充実 ③豊かな心の育成とふれあいのある学校教育の推進 ④安全、安心な学校給食の提供 ⑤教職員の資質の向上 ⑥教育効果を高める基盤や体制の整備

2 家庭・地域の教育力の向上

○　学校と地域が連携、協働する体制を構築するため、地域学校協働活動本部の導入や学校運営協議会が設置されているコミュニティ・スクールとの一体的な取り組みを推進します。
○　子育てする保護者を支援するため、家庭教育支援チームの普及を図るとともに、家庭に寄り添う支援の推進や相談体制の充実を図ります。
○　地域コミュニティづくり、地域課題の解決において、公民館等における地域のコミュニティ拠点の機能強化を図り、子どもの居場所や住民相互の学びあい、交流の場の活性化を図ります。

重点施策（重点的に取り組む施策）	推進施策（維持・伸長・拡充を図っていく施策）
①家庭教育における教育機能の充実 ②人間尊重を基盤とした人権教育・生命の安全教育の推進	①地域における教育力向上の環境づくり

3 グローバル人材の育成と生涯学習環境の整備

○　誰一人取り残されない社会の持続的な発展のため、日本や諸外国の文化を理解し、地域への愛着や誇りを持ちつつ、国際問題や世界情勢を意識したグローバルな視野を持って、国際社会や地域社会で活躍するための資質・能力を育成する、国際理解教育を推進します。
○　地域社会の活性化を担う人材育成を推進し、社会教育士、司書、学芸員などの人材を充実させることにより、公民館等の社会教育施設の活性化を図るとともに、福祉、防災等の関連施策との連携も推進します。

重点施策（重点的に取り組む施策）	推進施策（維持・伸長・拡充を図っていく施策）
①グローバル人材育成の推進 ②公民館活動の充実 ③図書館活動の充実	①誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができる生涯学習事業の推進 ②社会教育施設の管理運営

4 生涯にわたる健やかな体の育成とスポーツライフの振興

○　市民の誰もがスポーツに親しむ環境を整備し、スポーツを通じた心身の健康増進と健康長寿社会の実現を目指します。
○　地域資源や施設を有効活用したスポーツ交流等を促進することにより、地域やスポーツを支える人材やアスリートの育成、支援を図ります。
○　地域のスポーツ・文化芸術団体等と連携、協働し、地域の実情に応じながら、部活動の地域連携に向けた環境の整備を図ります。

重点施策（重点的に取り組む施策）	推進施策（維持・伸長・拡充を図っていく施策）
①スポーツライフを振興するための環境づくり	①健やかな心身を育み、活力を生む生涯スポーツの推進 ②ホストタウン交流や岡山シーガルズ、近隣大学との連携を生かしたスポーツ交流

5 文化創造活動の振興と文化財の保護・活用

○　赤磐市の特色ある文化財や資源、創造活動等を積極的に活用し、文化の力による地域の賑わいの創出を促進します。
○　子どもから大人まで、様々な文化芸術に触れる機会を創出することにより、文化活動に参加できる環境づくりを進め、裾野の拡大を図るとともに、地域文化や文化遺産の保護と継承を行い、次代につなげる担い手の育成を図ります。

重点施策（重点的に取り組む施策）	推進施策（維持・伸長・拡充を図っていく施策）
①文化財の保護と活用の推進 ②文化遺産の伝承と活用	①文化の力による地域の賑わいの創出

目標指標（令和 10 年度の目標）

1　主体的な学びと健やかな心身の成長を促す幼稚園教育、学校教育の充実

指　　標	令和６年度（実績）	令和１０年度（目標）
「授業の内容がよくわかる」と答える児童・生徒の割合（全国学力学習状況調査小・中学校全教科の平均値）（R6全国平均 81.7%）	83.8% （肯定的な回答の割合）	85.0% （肯定的な回答の割合）
全国学力学習状況調査の標準スコア結果（同一集団） 小６…小３時からの経年変化 中３…小６時からの経年変化	同一集団経年変化において、令和３年度比で標準スコア 小・・・＋１ 中・・・＋１	同一集団経年変化において、令和７年度比で標準スコア 小・・・＋１以上 中・・・＋１以上
全国学力学習状況調査の全国平均正答率との差	小・・・▲1.0 ポイント 中・・・＋1.3 ポイント	小・・・＋１ポイント 中・・・＋１ポイント
不登校出現率	小　1.87% 中　6.34%	小　1.50% 中　5.00%
特別支援学校教諭免許状所有率 （特別支援学級担当教諭）	38.9%	46%
「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と答える児童・生徒の割合	85.6% （肯定的な回答の割合）	87% （肯定的な回答の割合）
幼稚園施設非構造部材耐震化率	0%（0/6 施設）	33%（2/6 施設）
小中学校体育館空調設備整備率	0%（0/17施設）	40%（6/15 施設）
「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好き」と答える児童・生徒の割合（全国体力・運動能力調査）	小５男　75.8% 小５女　54.6% 中２男　64.6% 中２女　50.8% （肯定的な回答の割合）	小５男　80.0% 小５女　58.0% 中２男　72.0% 中２女　54.0% （肯定的な回答の割合）
保幼こ合同研修会に参加している教職員の総数（延べ数）	９８名	１３０名

2　家庭・地域の教育力の向上

指　　標	令和６年度（実績）	令和１０年度（目標）
家庭教育講座参加者	764 人／年	1,500 人／年
人権学習講座参加者数	31 人／年	50 人／年
地域学校協働活動本部導入校数	13 校	15 校（全小中学校）

3　グローバル人材の育成と生涯学習環境の整備

指　　標	令和６年度（実績）	令和１０年度（目標）
グローバル人材育成研修実施校数	０校	５校
中高生の地域活性化事業によるボランティア参加数（累計）	３６人／年	１６０人 （４年間の累計）
公民館利用者数	71,152 人	108,000 人
新規公民館グループ数	８団体	10 団体
図書館来館者数	121,230 人	168,000 人
図書館利用者カード新規発行数	578 件	950 件

4　生涯にわたる健やかな体の育成とスポーツライフの振興

指　　標	令和６年度（実績）	令和１０年度（目標）
スポーツ施設利用者数	486,688 人	480,000 人
スポーツ教室・大会等参加者数	4,812 人	5,000 人
週１回以上運動・スポーツをする割合	30.0%	40.0%

5　文化創造活動の振興と文化財の保護・活用

指　　標	令和６年度（実績）	令和１０年度（目標）
備前国分寺跡来跡者数 （ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ配布数）	491 人	600 人
山陽郷土資料館来館者数	1,147 人	2,800 人

令和７年 10 月　赤磐市・赤磐市教育委員会